

婦人と家庭

家庭に於ける諸儀式

後 閑 菊 野

其一 誕生祝

誕生に就ての祝式は古い昔から行はれたことでございまして人の妻たる者懐胎するときは着帯の祝を始めとして産前産後に於てのいろ／＼の祝儀は上下貴賤の別なく何れも分に應じて行ふことゝなつて居ります今次々に其大様を述べて見ませう

着帯祝

腹帯を着けることは懐妊して五ヶ月になり時の吉日を選んでするが普通でございましてがまた稀には七ヶ月目にするにもありませす其帯は昔は 夫或は實家より其外上下の殊に親しい人又は子孫繁昌なる人々より贈ることとございまして之を結びますには嫡妻には其夫たる人手づから之を結

びました例がまゝございませす其一二の例を申して見ますれば皇后御着帯部類と申す書物に次の事が記してございませす

寛喜二年十一月十一日戊戌今日中宮磁子 御懷妊に依て御着帯の事あり件の御帯は 北白河院國母 より之を調獻せらる藏人頭右中將藤原基氏朝臣御使として參上す 中略 女房權太夫之を取りて御前に持參す宮を開きて御覽せらる次に大進忠高を召し御加持を爲さしむ次に典藥頭和氣基成朝臣御手水間に參進し仙召子、二七丸を進らす次に吉時を以て吉方に向ひ御帯を着御主上結び奉らしめ給ふ云々

又吾妻鏡にも

養和二年三月九日己卯御臺所 源賴朝 御着帯なり千葉介常胤妻殊仰に依て孫子小太郎胤政を以て使となし御帯を獻す武衛 源賴朝 之を結びしめ奉り給ふ丹後局陪膳に候す

日に於ては帯は實家より妊娠後五ヶ月或は七ヶ月頃雙方の都合をはかり吉辰を選び紅白二様の絹或は布を長さ八尺乃至一丈二尺とし之をたゝみ奉書紙に包み水引を掛け三方或は臺又は廣蓋等に載せ之に長熨斗を添へ又別に魚類を添へて然るべき使を選んで之を贈るのでございます帯のたゝみやうは暨の兩方の端を中で合はせて又その如くうちへ兩方からたゝみ又それを二つに折りその細くたゝんだのを横に四つに折るが古禮でございます廣蓋に載せるときは帯の端の方を人の右になるやうにするがよろしうございませう帯を着けることは只今では此日産婆を呼びまして通例にさせます使の者へは其身分に應じて或は酒肴を饗し或は祝儀として金子を贈るも宜しうございませう産婆にも酒肴を出し祝儀の金子を遣はすのでございませう此日家内に於ては祝宴を開きまして母子の健康を祝するのがよろしうございませう場合によつては實家の父母を招いて共に祝ふもよろしいでございませう

祝宴の大小は身分場合に應ずべきものでございましてあながち立派にせねばならぬものではございませぬ例へば赤飯をたき頭つきの焼物をそへるとか位の事でもいさゝかあらたまつた處があればそれでよろしいのでございますから富まぬ家でも決して出来にくい事ではございませぬ。

この腹帯を着けるといふ事に就て一時は無用の事であるとか或は胎兒の發育を妨げる患があつて却て有害の事であるなどいふ説もございましたが細い帯で一部分を緊しくくるといふやうな締め方をすれば害にもなりません巾をひろくして（木綿半巾位）程よく纏ひかくならば決してさういふ患のないばかりではなく之がために腹部を暖め又下腹部の下垂を防いで胎兒の位置を適當に保ち母親の身体の運動を易くするなどの利益があるのでございます帯の地質は大抵晒木綿を用ゐるのでございますが又冬などはフラネルのやうな暖くてそして弾力のあるものを用ゐるもよろしい事でござ

します

着帯は衛生上よい事ならばそれは用ゐるもよからうが前にもあるやうな儀式めいた事は無用ではないかといふ考を持たれる方もございませうが決して無用の事ではございません子供は生れいで、後初めて之を保護し之を教育すべきものではございません母の胎内にある時から既に之に注意せねばならぬのでございませうからかやうに着帯式などを行ひますのも亦其の母親の健康をいのり子供の保護を手厚くする所以でございまして之がために

カレーとシチューの種

先頃の新聞にライスカレーとシチュー及ハヤレライスの固形にされたものが賣り出されたと云ふことが書いてあつたので早速買つて實驗してみました所が種と云ふのは何れも直径一寸四分程の圓形の固形物で厚さが八分ばかりあります。カレーの方は黄色を帯びて、カレーの香氣を衝きまします。シチューの方は赤色を帯びて居る。牛脂の香りがする。炊きかき先づ方法書を衝きまします。シチューの鍋は湯一合ばかり入れて火の上にかける。玉葱の細いのが出ました。葱を一つ入れて、肉の細片とくたくくに入れて煮え、中々悪くないです。唯方々書にもある通り葱を今少し足す方がよい様です。代價は一人前六錢だから高くはないが總菜にする譯には行かない様だ。但し自炊者には頗る重寶で

母親は自然と身を慎む念を深くし間接には胎兒の保護にもなるのでございませうそれに一家に於て時々何やかやと祝式などを行ひますのは家庭の趣味を益す方法としても亦大層よい事のやうに感じます。初めて懐胎をした花嫁さんなどには殊に之を鄭重に行て其母を祝ひ其胎兒の出生を歓迎する意を表はしたいものでございませうこの着帯祝を初めといたしましてこれより産所の式、七夜の祝ひ、宮參などさまざまございませうからおひくは是等の事をもお話しして見ようと思ひます。